

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	35人	算数	35人	理科	35人
第5学年	国語	48人	算数	48人	理科	48人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

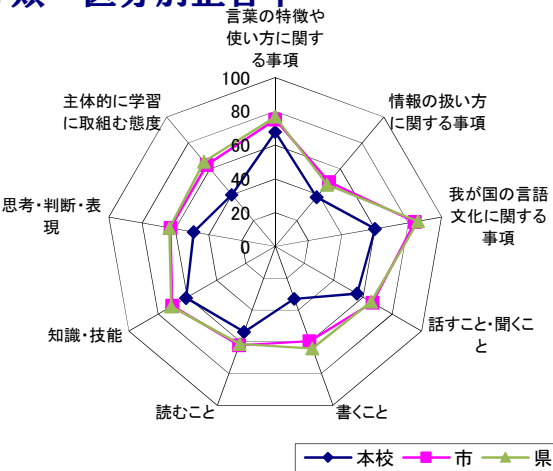
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	67.7	75.1	76.7
	情報の扱いに関する事項	38.1	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	60.0	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	56.0	66.5	65.5
	書くこと	32.9	59.6	64.2
	読むこと	53.8	62.2	61.5
観点	知識・技能	60.8	70.2	71.1
	思考・判断・表現	49.0	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	40.0	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

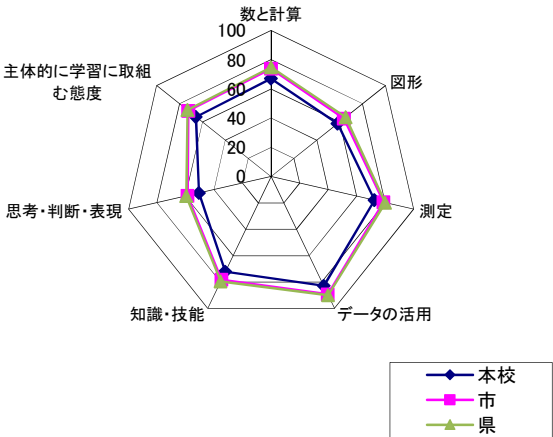
○良好な状況が見られたもの ●課題が見られたもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	●平均正答率は、市の平均を7.4ポイント下回っている。 ○漢字の読みに関しては理解している。 ○ローマ字で表記されたものを正しく読むことについては定着が見られた。 ●漢字の書きや語彙、主語述語について課題が見られた。	・ローマ字の読み書きについては、タイピング練習を行う中で、拗音や促音、ローマ字特有の記述などについて触れながら、更なる定着を図りたい。 ・漢字や文章を読み書きする機会を多く設け、語彙や主語述語の関係についての理解の定着を図っていく。
情報の扱いに関する事項	●平均正答率は、市の平均を11.5ポイント下回っている。 ●国語辞典の使い方の設問では、文章に合うような言葉の意味を選択することに課題が見られた。 ●情報と情報の関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約したり、話し手が伝えたいことの中心を捉えたりすることに課題が見られた。	・国語辞典の使い方については、使用する機会を増やし、語彙力を高めることで、文章に合うような言葉の意味を選択できるようにしていく。 ・情報と情報の関係については、文章から、キーワードや話し手が伝えたいことを見つめるような学習活動を増やしつつ、形式が類似する問題に触れさせながら、理解力を養っていく。
我が国の言語文化に関する事項	●平均正答率は、市の平均を24.0ポイント下回っている。 ●漢字のへんやつくりの理解に課題が見られた。	・漢字練習の際には、部首を意識しながら指導して定着を図りたい。 ・部首クイズを係活動などで行いながら、漢字について日常的に触れられるようにすることで、理解力を高めていく。
話すこと・聞くこと	●平均正答率は、市の平均を10.5ポイント下回っている。 ○話し合いの内容を聞き取り、話し手が伝えたいことの中心を捉えるについては、県の正答率を上回っている。 ●自分の考えを話したり、互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめたりすることに課題が見られた。	・話し手が伝えたいことの中心を捉えることができているので、グループ活動や学級内対話を多く行う中で、より話を聞く力が高まるようにしていく。 ・ペアでの対話や一分間スピーチなどの機会を多く設け、表現力の向上を図りたい。 ・意見の共通点や相違点に着目して課題を解決するような学習活動を通して、自分の考えをまとめる力を高めていく。
書くこと	●平均正答率は、市の平均を26.7ポイント下回っている。 ○自分の考えを明確にして文章を書くことについては、正答も多く見られた。 ●自分の考えを支える理由や事例を明確にして記述することに課題が見られた。 ●指定された条件や長さで文章を書くことに課題が見られた。また、無解答が多い。	・授業の振り返りにおいて、自分の考えを記述する際に理由も併せて書くような場面を多く設定し、書く力の向上を図る。 ・授業や家庭学習において、指定された長さで文章を書く課題を積極的に取り入れ、文章を書く力を身に付けられるようにする。
読むこと	●平均正答率は、市の平均を8.4ポイント下回っている。 ○物語の登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えることや、感じたり考えたりしたことを共有することができている。 ●説明文の叙述を基に、段落の内容を捉えることに課題が見られた。	・授業中に、場面の様子や指示語が表していることなどを問い掛けながら、更に叙述を基にした物語の読解力を高めていきたい。 ・物語や説明文の学習を行う際に、文章を場面や意味のまとまりに分けるような学習活動に時間をかけることで、構造的に文章を読む力を高めていく。

宇都宮市立城山中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	67.0	73.8	74.8
	図形	58.3	63.7	65.3
	測定	72.6	78.9	80.1
	データの活用	82.9	89.3	90.0
観 点	知識・技能	72.2	78.3	79.5
	思考・判断・表現	50.6	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	65.7	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

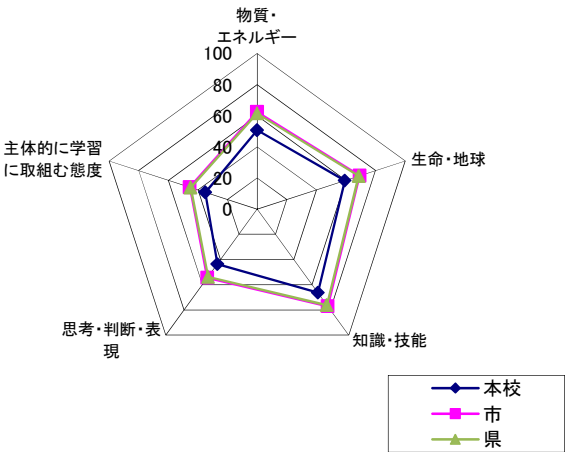
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●正答率は、市の平均より6.8ポイント低い。 ○同分母の真分数＋真分数＝真分数の計算の正答率は100%で、よく理解できている。 ●分子が1の分数が何個で1になるかの設問では、市の平均正答率より22.1ポイント低い。 ●4けた－3けた＝3けた(波及的繰り下がりあり)の計算の設問については、市の平均正答率より15.4ポイント低い。	・分数については、テープや物差し、1Lマスなど、具体物を用いながら、1になることが理解できるように指導する。 ・ひき算の筆算については、言葉で計算の仕方を説明したり、朝の学習の時間や宿題などで繰り返し復習したりして、確実な定着を図る。
図形	●正答率は、市の平均より5.4ポイント低い。 ○円の半径とコンパスの使い方についての設問では、市の平均正答率より0.9ポイント上回っている。 ●円の中心と円周上の2点を結んでできる三角形が二等辺三角形になる理由を説明する設問では、無解答率が28.6%であった。	・円と球については、実物と対応させたり、図に長さを書き入れたりしながら問題を解くことで、知識・技能の定着を図っていく。 ・記述式の問題については、問題文をしっかりと読むよう意識付けを図りながら、単元で習ったことをどう活用するかを話せるよう、日頃の授業でも取り入れていく。
測定	●正答率は、市の平均より6.3ポイント低い。 ○はかりの目盛りの読み方についての設問では、市の平均正答率より1.6ポイント上回っている。 ●2つの時刻の時間を求める問題では、市の平均正答率より7.7ポイント低い。 ●地図から道のりを読み取って、その和を求める設問では、市の平均正答率より12ポイント低い。	・時刻と時間については、単位を揃えたり、あと何分で何時になるかを図や数直線で表したりしながら取り組み、定着を図っていく。 ・長さについては、学級での学び合いの活動を基に、「道のり」と「距離」の違いを確実に理解できるように指導する。
データの活用	●正答率は、市の平均より6.4ポイント低い。 ○表と棒グラフについては、校内正答率は82.9%と全体的に定着している傾向にある。	・表と棒グラフについては、縦軸の数字に着目して、1目盛りがいくつになるかをしっかりと読み取れるようにする。 ・問題文を読み取って、グラフのどこを見ればよいのか、個別に支援しながら、一人一人の基礎学力の定着を図る。

宇都宮市立城山中央小学校 第4学年【理科】 分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	50.7	62.5	61.5
	生命・地球	59.2	69.2	68.6
観点	知識・技能	66.3	77.2	76.3
	思考・判断・表現	43.6	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	35.0	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	●平均正答率は、市の平均正答率より11.8ポイント低い。 ○虫眼鏡で集めた光の範囲を小さくすれば、明るく温度が高くなることをほぼ理解できている。 ●「電気の通り道」では、おもちゃの構造を理解し、適切な構造を理解する設問の平均正答率は37.1%で、市の平均正答率より21.2ポイント低い。 ●「じしゃくのせいしつ」では、鉄くぎがどのような磁石になるのか指摘する設問の平均正答率は22.9%で、市の平均正答率より18.4ポイント低い。	・乾電池と豆電球を使って回路をつくったり、ものづくりをしたりする活動を設け、その際に乾電池の＋極から－極へと順に回路を指でなぞらせるなど、回路について電気が流れる様子をイメージできるよう指導していく。 ・磁石の性質では、磁石の極の性質など、基本的な内容の理解が不十分であったので、基礎事項は徹底して指導していく。
生命・地球	●平均正答率は、市の平均正答率より10ポイント低い。 ○「太陽と地面のようす」では、棒温度計の目盛りを正しく読む設問で市の平均正答率を4.4ポイント上回っている。 ●「植物の育ち方」では、ホウセンカの子葉を理解する設問の平均正答率は60.0%で、市の平均正答率より27.1ポイント低い。 ●「こん虫の育ち方」では、完全変態と不完全変態の昆虫を理解する設問の平均正答率は34.3%で、市の平均正答率より31.4ポイント低い。	・ホウセンカの子葉の理解では、スケッチをして観察するだけでなく、写真やクロームブックを活用して、様々な植物の育ち方についても紹介しながら子葉について理解できるように指導していく。 ・実際に生き物を観察する時間を設けるだけでなく、その昆虫の育ち方について調べる学習を取り入れ、育ち方の違いについて理解できるよう指導していく。

宇都宮市立城山中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり聞いたりしますか」では、4時間以上と答えた児童の割合は、5.7%で市と県の18.5%を大きく下回っている。「ふだん、1日当たりどれくらいの時間テレビゲーム(コンピュータゲーム、けい帯式のゲーム、けい帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む)をしますか」でも、3時間以上が11.5%で市の23.4%より11.9ポイント少ない。時間を決めて、けいめをつけて行っていることがうかがえる。また、「ふだん、1日にどれくらいの時間、すいみんをとることが最も多いですか。」では、「8時間以上」と答えた児童の割合は、80.1%で市や県を上回っている。今後も家庭と連携して、家庭での時間の使い方やよりよい過ごし方について考えていくようにしたい。

○自分自身のことでは、「自分にはよいところがあると思う」「だれに対しても思いやりの心をもってせつしている」「しょう来のゆめや目標をもっている」「自分がもっている能力を十分に発せたい」は、いずれもほぼ90%の児童が肯定的回答をしている。今後も一人一人のよさに目を向け、児童の成長を見守り、伸ばしていく指導をしていきたい。

○家庭での学習で「家で授業の復習をしている。」の肯定的回答が、65.7%で市や県を上回っている。「家でテストで間違えた問題について勉強をしている。」は82.9%で、市を18.1ポイント上回った。「学校の宿題の量はちょうどよいと思う。」の肯定的回答も97.1%と市や県より高いので、学習内容が確実に身に付くように宿題の内容を工夫したり、声掛けをしたりしていきたい。

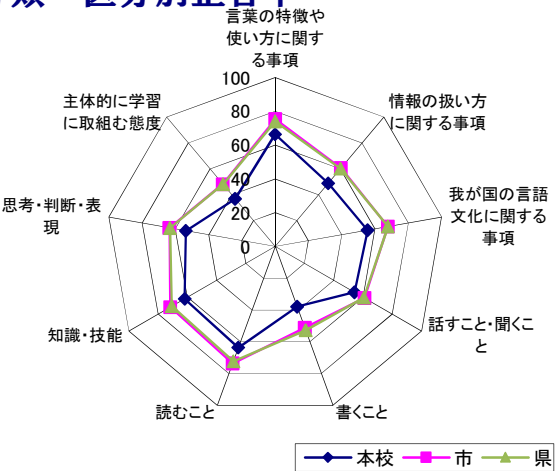
●半面、家庭での学習で「家で学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」は、40%で市や県を20ポイント下回っている。また、家庭での学習時間について、「ふだん(月～金曜日)1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」では「30分より少ない」児童が31.4%と市や県の倍と多く、「全くしない」が11.4%と市や県の3倍近くもいる。「学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」では、「1時間より少ない」が77.2%で、市の52.2%、県の47.3%を大きく上回っている。「全くしない」と答えた児童も28.6%で市や県を15ポイント以上上回っている。「学習習慣定着強化週間」での声掛けや、学年だよりなどで家庭と連携を図りながら家庭学習に自主的に取り組めるように支援していきたい。

●学習について「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」の肯定的回答は71.4%で、市の84.5%、県の84.1%よりほぼ13ポイント低い。「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」も、54.2%で、市の70.6%、県の73.4%を大きく下回っている。「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」「勉強していて、不思議だな、なぜだろう、と感じることがある」は、どちらも8割を超えているので、基礎基本を定着させることで、意欲を持って楽しく学習に取り組めるように支援を工夫していきたい。

宇都宮市立城山中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	66.4	75.4	74.1
	情報の扱い方にに関する事項	48.9	60.5	60.2
	我が国の言語文化にに関する事項	55.6	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	54.2	61.0	60.7
	書くこと	37.8	51.2	52.8
	読むこと	63.7	73.7	72.4
観点	知識・技能	61.9	71.7	70.6
	思考・判断・表現	53.6	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	36.9	48.2	48.1



★指導の工夫と改善

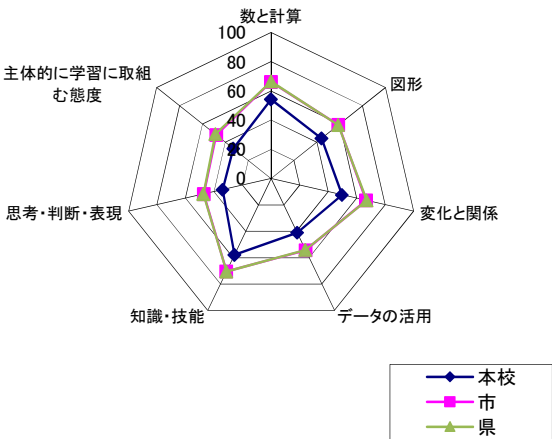
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	●平均正答率は、市の平均と比べて9ポイント下回っている。 ○第4学年の漢字の読み取り、書き取りの設問は、市及び県の平均を上回っているものもある。 ●指定された条件で読み取ったことを2段落構成で文章を書くことについては、市の平均と比べて17.7ポイント下回っている。	・漢字の学習については、漢字スキルや家庭学習で練習を重ねていき、定期的に漢字テストを行ったり、宮っ子ステップアップシートを活用したりしながら定着させていく。 ・テーマや字数など、指定された条件や構成に合わせて文章を書く機会を設け、文章を書くことに慣れさせていく。
情報の扱い方にに関する事項	●平均正答率は、市の平均と比べて11.6ポイント下回っている。 ●漢字辞典の使い方にに関する設問では、市及び県の平均を5ポイント以上下回っている。 ●情報を読み取って中心となる語や文章を見付ける設問では、市及び県の平均を下回っており、必要な語や文章を見付け、読み取ることに課題が見られる。	・漢字の学習のときは、読み方だけでなく部首や総画数も意識させて練習に取り組ませる。また、漢字の用法も合わせて学習し、語彙力を高めさせる。 ・文章から読み取るときには、どんなことを問われているのか確認し、文章の中のどの語や文が当てはまるのか考えられるようにしていく。文章の要点をまとめて書く練習をし、情報と情報を関連付けて考える力を養っていく。
我が国の言語文化にに関する事項	●平均正答率は、市の平均と比べて12.1ポイント下回っている。 ●文章に適したことわざを選択する設問では、正答率が市及び県の平均正答率を下回っており、ことわざの意味と使い方を正しく理解することに課題が見られる。	・教科書に示された使用例以外のことわざにも注目させ、意味を調べさせたり使用例を考えさせたりする学習を行い、言語文化のすばらしさや言語感覚を養っていきたい。
話すこと・聞くこと	●平均正答率は、市の平均と比べて6.8ポイント下回っている。 ○話し合いの様子を聞いて、話し手の工夫を問う設問では、市の平均正答率と比べて、1.6ポイント上回っている。 ●理由や事例と関連付けて書くことについては、市及び県の平均を下回っている。また、無解答率も30%以上だった。	・話し合いのときは、聞き手に伝わりやすい話し方や話し合いが円滑に進むための司会の役割などを、授業を通して練習していく。 ・話したことをまとめたり集約したりできるよう、メモを取りながら意見や考えをまとめるよう指導していく。自分の考えをまとめ伝える活動では、相手が話をする際、どんなことを言ったのかをメモさせ、注意深く聞く力を高めていく。
書くこと	●平均正答率は、市の平均と比べて、13.4ポイント下回っている。 ●条件指定で、自分の考えを理由や事例を関連付けて書くことについては、市及び県の平均を下回っている。また、無解答率も25%以上だった。	・テーマや字数など、指定された条件や構成に合わせて文章を書くことを練習する機会を設け、文章を書くことに慣れさせていく。 ・他教科も活用し、自分の考えが明確になるように理由や根拠を挙げて文章を書く指導を行い、書く活動を日常的に行っていく。無解答も見られたことから、時間配分を考えて文章を書く練習を積み重ねていく。
読むこと	●平均正答率は、市の平均と比べて、10ポイント下回っている。 ●物語文、説明文の設問すべてが市及び県の平均正答率を下回っており、叙述を基に内容を捉えることに課題が見られる。	・物語文では、登場人物の心情が分かる言葉を探したり、心情が変化した原因や理由を行間から考えたりする場を設け、読解力を高めていきたい。 ・説明文では、大まかな内容を捉えさせ、起承転結、具体例や要点の段階などを捉える練習に取り組み、説明文の読み方を身に付けさせたい。更に、要点をまとめる練習をし、文章を書く機会を合わせて取り入れ、書く力も高めていきたい。

宇都宮市立城山中央小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	54.2	66.1	66.4
	図形	44.1	58.9	58.8
	変化と関係	49.8	66.6	67.0
	データの活用	41.1	54.4	54.2
観点	知識・技能	57.8	70.4	70.6
	思考・判断・表現	34.0	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	33.0	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

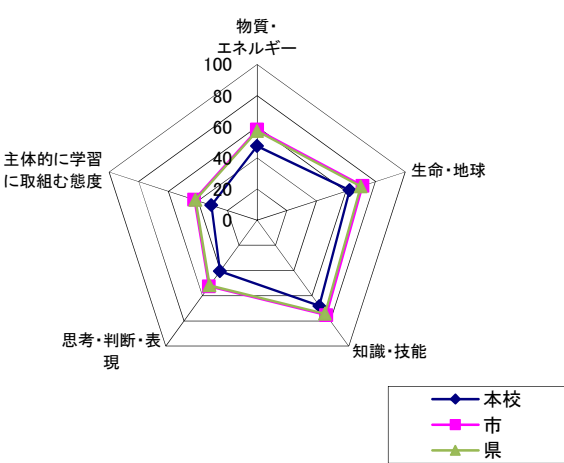
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●平均正答率は市の平均より11.9ポイント低い。 ○分数を数直線上に示す問題の正答率が高い。 ●基準量を求める除法の文章問題を図に表す問題の正答率は市の平均より25.2ポイント低い。 ●かけ算の問題を分配法則を使って工夫して計算する問題の正答率は33.3%で、市の平均より14ポイント低い。	・今後も授業や朝の学習の時間を利用して、計算練習に取り組ませ、基礎基本の定着を図るようにする。 ・わり算の文章問題を授業で扱うときは、図式化してから立式することを習慣づけ、文章から状況をイメージして問題を解決できるよう指導を継続していく。 ・どのような場面で分配法則などの計算のきまりを使うと便利なのか提示し、練習問題に取り組むことで習熟を図っていく。
図形	●平均正答率は市の平均より14.8ポイント低い。 ○分度器の中に示された角の大きさを読み取る問題では正答率が高い。 ●教室のおよその面積を選ぶ問題では正答率が13.3%で、市の平均より23.4ポイント低い。 ●平行四辺形の作図をする問題では、市の平均を28ポイント下回っている。	・日常生活の中で、身近な物の大きさを意識させることで、およその面積を予想できるようにする。 ・平行四辺形の作図では、図の性質を利用して2つの方法で作図でできることを確認させる。また、平行線や垂直線の描き方など既習事項の確認をし、正しい作図の仕方を定着させる。
変化と関係	●平均正答率は市の平均より16.8ポイント低い。 ●折れ線グラフから必要なことを読み取る問題の正答率は、市の平均より11.4ポイント低い。 ●2つの週の図書室の利用者数の違いを求めるために、二次元表を正しく読み取り、利用者数の差をどう求めるか説明する問題では、正答率が6.7%と低く、市の平均正答率を14.9ポイント下回っている。	・折れ線グラフのデータを正確に読み取れるよう、数値の読み方や変化の大小などの基本事項の確認を行いつつ、補助教材を用いて定着を図り、今後の学習につながるよう指導する。 ・二次元表を正しく読み取れるよう、同じような問題練習を反復して行うとともに、情報を整理し、根拠を示しながら自分の考えを説明する活動を様々な場面に取り入れていくようにする。
データの活用	●平均正答率は市の平均より13.3ポイント低い。 ●分数の加法を整数に直して説明する問題の正答率は、市より6.6ポイント低い。 ●乗法の性質を図に表して考える問題の正答率は、市より17.4ポイント低い。	・単位分数をもとにして分数の加法の計算の説明ができるよう、キーワードを示しながら記述する練習をさせ、自分の考えを順序立てて説明することへの苦手意識をなくすよう、指導を継続していく。 ・乗法の性質を図に表して考えられるよう、数値や場面を変えた適用問題を繰り返し行い、習熟を図る。 ・小数のかけ算を整数のかけ算をもとに図で表す問題は、今後の小数や分数の計算の学習で何度も扱われる。今後の学習でも活用できるよう、数値や場面を変えた適用問題を用いて習熟を図る。

宇都宮市立城山中央小学校 第5学年【理科】 分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	47.5	58.1	57.2
	生命・地球	62.5	71.1	70.0
観点	知識・技能	68.1	75.5	74.4
	思考・判断・表現	40.6	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	30.9	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	●平均正答率は、市平均と比べて10.6ポイント低い。 ○「水を加熱するときに沸騰石を入れる理由」を答える設問では、市の平均正答率を4.1ポイント上回った。 ●「物の体積と力」の問題では、市平均より18.4ポイント下回った。特に、「気泡シートが閉じ込められた空気のどのような性質を利用しているかを説明できる」設問では、市の平均正答率を18.2ポイント下回った。 ●「物のあたたまり方」の問題では、市平均より12.2ポイント下回った。特に、「水のあたたまり方から水槽のヒーターを取り付ける適切な位置を推測できる」設問では、市の平均正答率を19.2ポイント下回った。	・自然科学の知識を身に付けて実感を伴った理解が得られるように、実験前に既習事項をもとに予想をさせたり、見通しを持たせたりする活動の工夫や、実験の改善を図っていく。また、実験後の結果と考察だけでなく、まとめ、振り返り、次時の導入場面などで確認をしていくことで、知識の定着を図る。 ・実験を行う際には、使用する器具や注意することについて、理由を考えながら説明させることにより、深い学びにつながるようにする。 ・学習内容に関わる生活経験を振り返らせたり、既習事項から予想させたりすることで、自己の身近な生活の中での経験が実感を伴った知識の習得につながるよう促していく。
生命・地球	●平均正答率は、市平均と比べて8.6ポイント低い。 ○「1年間の植物の成長」の問題では、「ヘチマ」の設問で市平均を少し上回った。 ○「1年間の動物のようす」の問題では、「オオカミの冬の越し方」の設問で市の平均を上回った。 ●「1年間の植物の成長」の「季節とサクラのようすの関係」の設問では、市平均より14.7ポイント低かった。 ●「月と星」の「方位磁針の使い方」の設問では、市平均より29.7ポイント低かった。どの設問でも正答率が、市の平均を下回った。	・身近な自然の観察は、実際に校庭やまごころ広場に行って生き物を見ることによって観察の仕方が身に付いてきているので、引き続き指導していく。 ・月や星の動きや動物のからだのつくりなど、児童にとってあまり身近ではなく、理解しにくい内容については、ICTも含めた複数の情報や資料等視覚的に分かる教材を取り入れて知識の定着を図り、理解を深めていく。 ・授業で学んだことを普段の生活に生かすことができるように、授業以外の場面において、積極的に理科学的な現象を話題として取り上げることにより児童の意識を高め、理解をより深いものとしていく。

宇都宮市立城山中央小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

●家庭での学習に関する質問項目では、市の平均を下回るものが多い。「宿題」や「予習」「復習」などの学習習慣の定着している児童が少ないことがうかがえる。

●学習時間については、平日30分以下の児童が、22.6%と市の平均の2倍ほど多い。土日も1時間未満の学習時間の児童が64.4%おり、全くしない児童も20%見られており、今後の課題である。

○「宿題」については、「学校の宿題の量はちょうどよいと思う。」「学校の宿題はやりたくなる内容だ。」「学校の宿題は自分のためになっている。」の質問に対して肯定的回答が市の平均を上回っている。

○「勉強していて、おもしろい」「不思議だ、なぜだろうと感じる」の肯定回答の割合は市の平均とほぼ同じで、学習に興味を持って取り組んでいることがうかがえる。

●「国語」や「算数」が将来役に立つことは分かっているが、「好き」の質問に対して、「どちらかといえば、いいえ」と否定的な回答をする割合が高かった。「難しい問題に出会うと、よりやる気が出る」では、「いいえ。」と回答する児童の割合が市の平均を3ポイント上回った。また「学習に、自分から取り組んでいる」「できるだけ一人の力で課題を解決しようとしている」についても肯定割合の低い傾向が見られた。

○授業では、「めあて」をつかみ、「話し合い」をしながら考えを深め、「ノートにまとめ」「振り返り」をよく行うなど、どの質問項目においても肯定割合が市の平均より高く、落ち着いて学習に取り組んでいることがうかがえる。

○「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」の質問に「はい。」と回答する割合が市の平均よりも高かった。引き続き授業の中で意図的に取り上げ、指導をしていく。

●「クラスの役に立っている」について、「いいえ。」と答えた児童の割合は市の平均より8.4ポイント高く、学級での居がいを感じていない児童が多い。「自分には、よいところがある」では否定的な割合が市の平均より7.2ポイント高く、自己肯定感を高めるような指導や、自尊感情の育成に努めたい。

●1日に4時間以上動画を見ている割合は、市の平均より8.7ポイント高く、1日に4時間以上ゲームをしている割合も、市の平均より9.2ポイント高い。ゲームや動画に費やす時間がとても多い児童がいることがうかがえる。学級活動を利用し、動画やゲームの際にはタイマーをかけるなど時間を決めて行い、時間の使い方を考えるようにさせる。

○読書について、「月に5～10冊の本を読んでいる」児童の割合は、市の平均よりも14.5ポイント高かった。今後も、本に関する関心を高める指導の継続を図りたい。

宇都宮市立城山中央小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の改善と工夫。	・学習のねらいや見通しをつかむことができる明確な課題の提示を行う。 ・学習習慣と基礎・基本を定着させるための指導の工夫。 ・自分の意見を安心して表現し合える学級経営に努めるとともに、伝え合う活動を意図的に設ける。	・見通しを持って学習に取り組めるような課題の提示に全校で取り組んできたが、肯定割合は低かった。また、「まとめを書く」についても低い。 ・各教科とも、基礎・基本的な内容の理解が不十分である。思考・判断を要する応用的な問題にも課題が見られる。 ・「クラスは、発言しやすい雰囲気である。」の肯定割合が約8割と高く、「話し合いに進んで参加している」は7割であった。
・自分の意見を安心して表現し合える学級経営に努めるとともに、伝え合う活動を意図的に設ける。	・『居がいい、やりがいい、学び合いを目指した学習指導』を校内の研究課題とし、授業の工夫や話し合い活動の支援を行い、家庭学習においても一言日記を取り入れるなど書く機会を増やす工夫をする。 ・朝の学習の時間を「モジュール学習」とし、基礎・基本の定着を図るために活用する。 ・クロームブックを積極的に活用し、児童の興味・関心を高めるとともに、児童同士の学びを共有し、意見を交換し合う中で、課題を追究しようとする意欲を育てていく。	・国語の「書くこと」で約21ポイント、「我が国の言語文化に関する事項」で約18ポイント、算数の「図形」で約10ポイント、理科の「物質・エネルギー」で約11ポイントなど3教科のすべての事項で市の平均よりマイナスであった。しかし、算数の「数と計算」の中の、基本的な計算はよくできていた。 ・「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」「クラスは、発言しやすい雰囲気である。」がともに約8割と高い肯定割合であった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
3教科すべての事項で、市の平均正答率より低い。 家庭学習では、平日や休日の学習時間が1時間以下の（学年の目標時間より）短い児童が多く、学習の習慣化が十分ではない。	・一人一授業などの授業研究 ・書く力の育成 ・家庭学習強化週間の設置 ・朝の学習の活用 ・クロームブックの活用	・児童一人一人が分かる授業を目指し、『一人一授業』など授業の研究に取り組む。 ・学習のねらいや見通しをつかむことができる明確な課題の提示とまとめ・振り返りを行う時間の確保を図った授業の研究を行う。 ・分かったことから考えをまとめて書く時間を確保するなど、書く力の育成を図る工夫をする。 ・家庭学習強化週間を年2回設定し、『決まった時間に、学年の目標学習時間家庭学習へ取り組む』ことを目指す。 ・朝の学習の時間を「モジュール学習」として位置づけ、基礎・基本の定着を図るために計画的に活用していく。 ・クロームブックを積極的に活用し、児童の興味・関心を高め、児童同士の学びを共有したり、話し合いを深めたりする手立てとし、また、AIDリルなどを用いて繰り返し学習を行い、基礎基本の定着を図るようにする。